学校番号	2004

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学演習	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この「数学演習」では、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学 A」「数学 B」「数学 C」の範囲にわたる発展的な内容を学びます。授業の目的は、単に問題を解く力をつけるだけでなく、難易度の高い問題に挑戦することで、論理的な問題解決能力と正確な記述力を養成することです。特に、記述式の大学入試に対応した問題集を使用し、実際の試験に近い形式で演習を行います。これにより、試験で求められる「解答の過程を明確に示す力」を養い、どんな問題にも自信を持って取り組めるようになります。授業では、計算力や理解力を深めるとともに、思考の整理や解法の構築方法を学びます。高度な問題に取り組むことで、確実に問題解決能力を向上させるとともに、数学的な思考力を鍛えることができます。入試に向けた実践的な力を身につけるために、この演習を有効に活用してください。

2　学習の到達目標

(１)数学に関する基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
(２)数学的な対象・事象に関する思考力、解法に関する判断力、解答を記述する表現力を養う。
(３)数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	関数、場合の数・確率、微分・積分、ベクトル、数列、統計的推測などの基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、身につける。また、数学的な考え方を用いて事象を数学的にモデル化・解釈・表現・処理する技能を養う。	図形の性質を論理的に考察し、関数関係に着目して事象を適切に表現し、その特徴を数学的に分析する力を養う。また、確率分布や標本分布の性質に注目し、標本調査の方法や結果を批判的に考察する力を身につける。これにより、日常の事象を数学的にモデル化し、問題解決の過程や結果を統合的かつ発展的に振り返る力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の家庭を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	2次関数・図形と方程式・三角比・三角関数・指数・対数関数	●2次関数 ●場合の数・確率 ●点・直線・円 ●三角比 ●三角関数 ●指数関数 ●対数関数	a:定義・定理・公式を正しく活用することができる。 b:解法を考えるにあたり、必要な情報や使える知識を判断することができる。 c:なぜその解法で問題が解けるのか、他に解法はないのかなど考察・探究しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題プリント	授業態度 発問評価 課題プリント
後期	微分・積分・数列・ベクトル データの分析・統計的な推測	●微分 ●積分 ●数列 ●ベクトル ●データの分析 ●統計的な推測	a:定義・定理・公式を正しく活用することができる。 b:解法を考えるにあたり、必要な情報や使える知識を判断することができる。 c:なぜその解法で問題が解けるのか、他に解法はないのかなど考察・探究しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題プリント	授業態度 発問評価 課題プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度